

S I D R

(滋賀県感染症情報)

SHIGA Infectious Diseases Report

《月報》
平成 23年 6月
(第22 ~ 26週)

発行年月日 : 平成23年(2011年) 7月19日
行 : 滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター
電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

1) 全数報告の感染症(一類～五類)

全国の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は、保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。また、届出により全国または滋賀県で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症 類型	疾 病 名	平成 23年				平成 22年 ^{*1}				感染症 類型	疾 病 名	平成 23年				平成 22年 ^{*1}			
		1～5月		6月		1～12月						1～5月		6月		1～12月			
		滋賀県	全 国	滋賀県	全 国	滋賀県	全 国					滋賀県	全 国	滋賀県	全 国	滋賀県	全 国		
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	四類	鳥インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0		
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	痘そう	0	0	0	0	0	0		0	8	0	21	0	133	0	0	0		
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0		0	0	1	0	0	0	0	0	0		
	ベスト	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0		
二類	急性灰白髄炎	0	1	0	0	0	2	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	結核	127	11,147	35	3,201	251	26,704	ペネズエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	発しんチフス	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0	0	0	0	ボツリヌス症	0	2	0	1	0	0	0	0	0		
	コレラ	0	2	0	0	0	10	マラリア	0	23	0	7	0	76	0	0	0		
三類	細菌性赤痢	2	80	0	19	2	235	野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	腸管出血性大腸菌感染症	6	515	11	658	66	4,131	ライム病	0	2	0	0	0	0	0	13	0		
	腸チフス	0	5	0	5	0	32	リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	パラチフス	0	12	0	1	1	21	リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	E型肝炎	0	28	0	8	0	66	類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
四類	ウエストナイル熱	0	0	0	0	0	0	レジオネラ症	4	208	4	102	10	751	0	0	0		
	A型肝炎	0	122	0	9	3	346	レプトスピラ症	0	5	0	0	0	0	20	0	0		
	エキノコックス症	0	10	0	1	0	17	ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	黄熱	0	0	0	0	0	0	五類	アメーバ赤痢	1	302	1	74	7	845	0	0	0	
	オウム病	0	7	0	1	1	11		ウイルス性肝炎	1	91	0	36	3	222	0	0	0	
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0		急性脳炎	0	141	1	22	0	241	0	0	0	
	回帰熱	0	0	0	0	0	1		クリプトスポリジウム症	0	3	0	2	0	16	0	0	0	
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0		クロイツフェルト・ヤコブ病	1	46	0	13	2	171	0	0	0	
	Q熱	0	0	0	0	0	2		劇症型溶血性 レンサ球 菌感染症	1	96	0	28	3	127	0	0	0	
	狂犬病	0	0	0	0	0	0		後天性免疫不全症候群	2	519	0	172	1	1,549	0	0	0	
	コクシジオイデス症	0	2	0	0	0	1		ジアルジア症	0	26	0	8	1	80	0	0	0	
	サル痘	0	0	0	0	0	0		髄膜炎菌性髄膜炎	0	5	0	2	0	7	0	0	0	
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0		先天性風疹症候群	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0		梅毒	3	258	0	101	9	621	0	0	0	
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0		破傷風	1	39	0	13	0	106	0	0	0	
	炭疽	0	0	0	0	0	0		バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	チクングニア熱 ^(*)	0	3	0	2	-	-		バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	22	0	5	2	121	0	0	0	
	つつが虫病	0	81	0	70	2	406		風しん	2	150	0	81	5	89	0	0	0	
	デング熱	1	38	0	4	2	245	麻しん	0	281	1	67	1	455	0	0	0		
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	動物の 感染症	鳥インフルエンザ(H5N1)の鳥類	0	69	0	1	0	0	0	0	0	
									細菌性赤痢のサル	6	9	1	3	0	59	0	0	0	
							エキノコックス症の犬		0	1	0	0	0	0	0	0	0		

(*)：感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。 -：未集計
*1 感染症発生動向調査事業年報(国立感染症研究所感染症情報センター、暫定数)

(*) : 感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。 - : 未集計
*1. 感染症発生動向調査事業年報(国立感染症研究所感染症情報センター、暫定数)

滋賀県における全数報告感染症の概要 (6月)

< 結核 > 35名
性別: 男性 23名、女性 12名
類型: 患者 23名
無症状病原体保有者 12名
病型: 肺結核 17名
その他の結核 6名
無症状病原体保有者 12名

< 腸管出血性大腸菌感染症 >
性別: 男性 5名、女性 6名
類型: 患者 7名
無症状病原体保有者 4名
年齢: 0～9歳 1名、10～19歳 1名
20～29歳 4名、30～39歳 3名
70歳以上 2名
血清型・毒素型:
O157・VT1&VT2 6名
O157・VT2 3名、O26・VT1 2名

< レジオネラ症 >
男性 52歳、60歳、63歳、86歳
推定感染経路は水系感染、塵埃感染
および不明で、推定感染地域は4名とも日
本国内です。

< アムール赤痢 > 男性 67歳
推定感染経路は異性間性的接触で、推
定感染地域は日本国内です。また、病型
は腸管外アムール赤痢です。

< 急性脳炎 > 女性 86歳
推定感染経路は不明で、推定感染地域
は日本国内です。

< 麻しん > 男性 2歳
推定感染経路は不明で、推定感染地域
は日本国内です。また、ワクチンの接種歴
は有ります(1回目)。

< 細菌性赤痢のサル > 1例
感染原因は、保菌ザルの入荷によると
推測されます。

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のうち、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症を定点把握対象感染症といいます。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点および基幹定点に分かれています。

6月の概要

<インフルエンザ>

第22～26週(5/30～7/3)の定点当たり患者数は、先月より大幅に減少し0.13～0.49で推移していました。インフルエンザの発生は、ほぼ終息したと思われます。

<小児科定点疾患>

今月減少した疾患は感染性胃腸炎のみで、他の疾患ではすべて増加し、特に、咽頭結膜熱(プール熱)、手足口病およびヘルパンギーナで大幅に増加していました。(各疾患の週別発生状況については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。また、第24週(6/13～6/19)には咽頭結膜熱(プール熱)、第26週(6/27～7/3)には手足口病の警報が、県内全域に発令されました。各疾患の保健所管内別の警報・注意報発生状況は、下記のとおりです。

<眼科定点疾患> <基幹定点疾患>

眼科定点疾患である流行性角結膜炎は先月よりやや増加し、彦根保健所管内からの報告が多くなっていました。急性出血性結膜炎の報告はありませんでした。基幹定点疾患では、細菌性髄膜炎は先月と横ばいでした。マイコプラズマ肺炎は先月より急増し、大津市および東近江保健所管内からの報告が多くなっていました。また、無菌性髄膜炎およびクラミジア肺炎の報告はありませんでした。

<疑似症定点からの報告>

第23週(6/6～6/12)に大津市保健所管内から、第2号疑似症「発熱および発しん又は水疱」に該当する症例が1件報告されました。

感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システムによる警報・注意報発生状況(平成23年第22～26週)

疾 患 名	22週 5/30～ 6/5		23週 6/ 6～ 6/12		24週 6/13～ 6/19		25週 6/20～ 6/26		26週 6/27～ 7/3		警報発生基準値 警報開始 基準値	警報終息 基準値	注意報 発生 基準値
咽頭結膜熱(プール熱)			大津市		大津市		大津市		大津市		3.00	1.00	-
	草 津		草 津		草 津		草 津		草 津				
	東近江		東近江		東近江		東近江		東近江				
水痘			高 島		甲 賀						7.00	4.00	4.00
手足口病		高 島	高 島		高 島		大津市		大津市		5.00	2.00	-
							草 津		草 津				
							東近江		東近江				
伝染性紅斑(リンゴ病)			高 島								2.00	1.00	-
ヘルパンギーナ					高 島		高 島		高 島		6.00	2.00	-
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		彦 根	彦 根								6.00	2.00	3.00

空白部分については、警報発生基準値および注意報基準値に該当する保健所管内はありません。

：警報開始基準値または警報終息基準値を超えています。：注意報発生基準値を超えています。

数字はすべて定点当たり患者数(人)です。-：注意報の対象外という意味です。

<各定点の対象疾患>

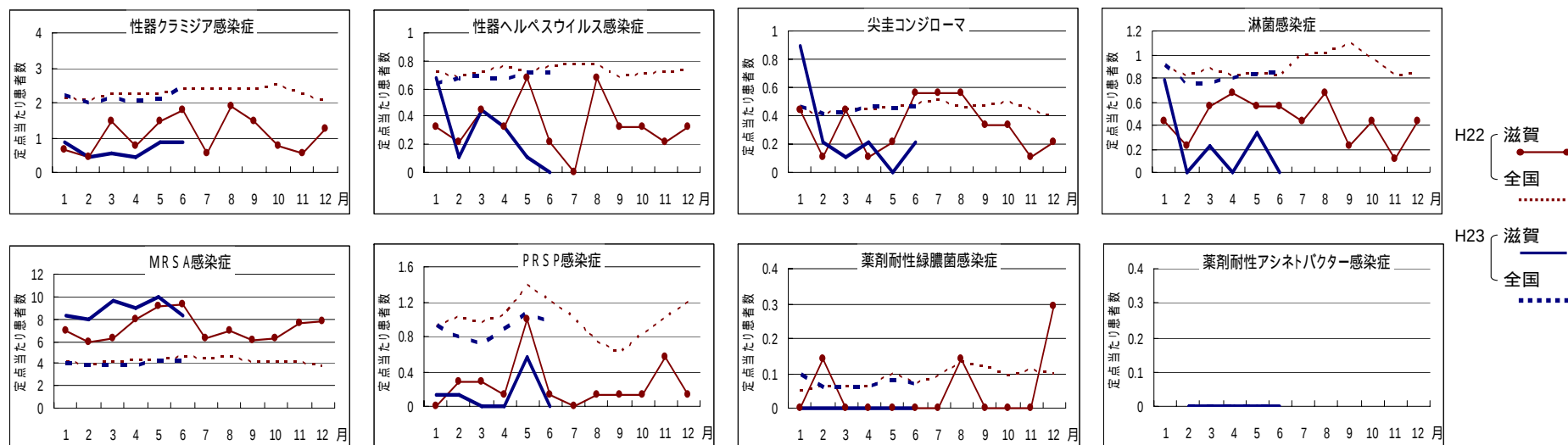
定 点	疾 患 名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱 A群溶レン菌咽頭炎、水痘 感染性胃腸炎、手足口病 伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳 突発性発しん、ヘルパンギーナ 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎 流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎 マイコプラズマ肺炎 クラミジア肺炎(オウム病を除く)

全国集計などの詳細な集計結果は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)において公表されています。

3) 性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成 23 年 6 月)

疾患名	区分	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合 計
性器クラミジア感染症	報告数	8	4	5	4	8	8							37
	定点当たり患者数	0.89	0.44	0.56	0.44	0.89	0.89							4.11
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	6	1	4	3	1	0							15
	定点当たり患者数	0.67	0.11	0.44	0.33	0.11	0							1.66
尖圭コンジローマ	報告数	8	2	1	2	0	2							15
	定点当たり患者数	0.89	0.22	0.11	0.22	0	0.22							1.66
淋菌感染症	報告数	7	0	2	0	3	0							12
	定点当たり患者数	0.78	0	0.22	0	0.33	0							1.33
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	報告数	58	56	68	63	70	58							373
	定点当たり患者数	8.29	8.00	9.71	9.00	10.00	8.29							53.29
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	報告数	1	1	0	0	4	0							6
	定点当たり患者数	0.14	0.14	0	0	0.57	0							0.85
薬剤耐性 緑膿菌感染症	報告数	0	0	0	0	0	0							0
	定点当たり患者数	0	0	0	0	0	0							0
薬剤耐性 アシネトバクター感染症 ^(*)	報告数	-	0	0	0	0	0							0
	定点当たり患者数	-	0	0	0	0	0							0

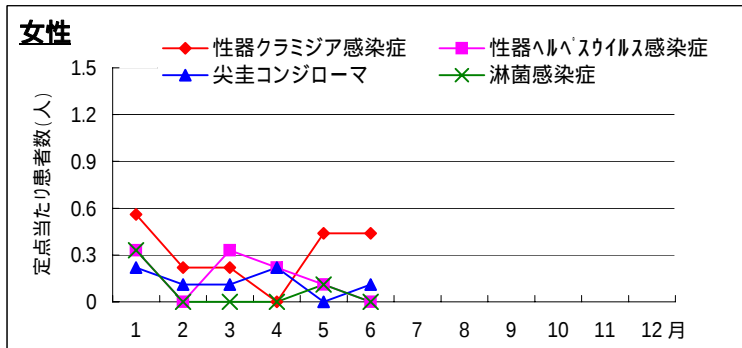
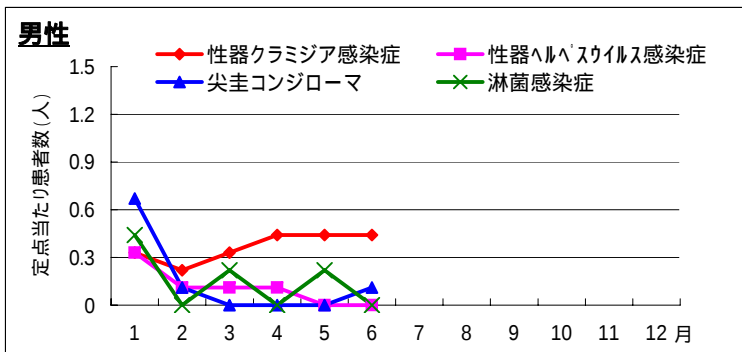
*: 感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。 - は未集計。



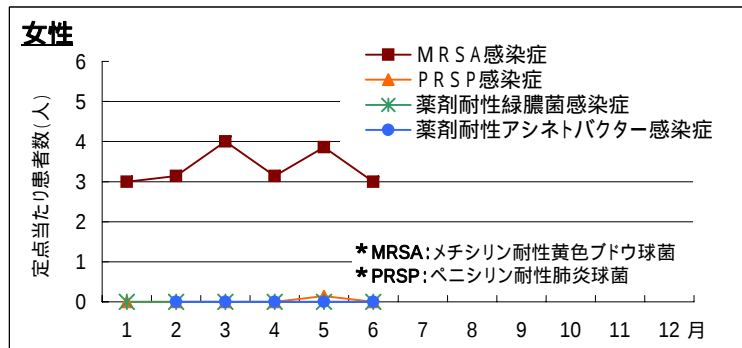
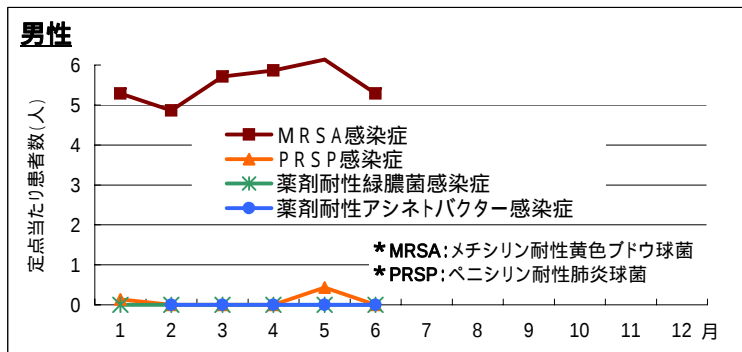
滋賀県における発生状況を先月と比較すると、増加した疾患は尖圭コンジローマのみです。MRSA感染症は減少し、性器クラミジア感染症は横ばいです。また、性器ヘルペスウイルス感染症、淋菌感染症、PRSP感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症および薬剤耐性アシネトバクター感染症は報告されていません。

MRSA: メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
PRSP: ペニシリン耐性肺炎球菌

性感染症定点における疾患別発生状況



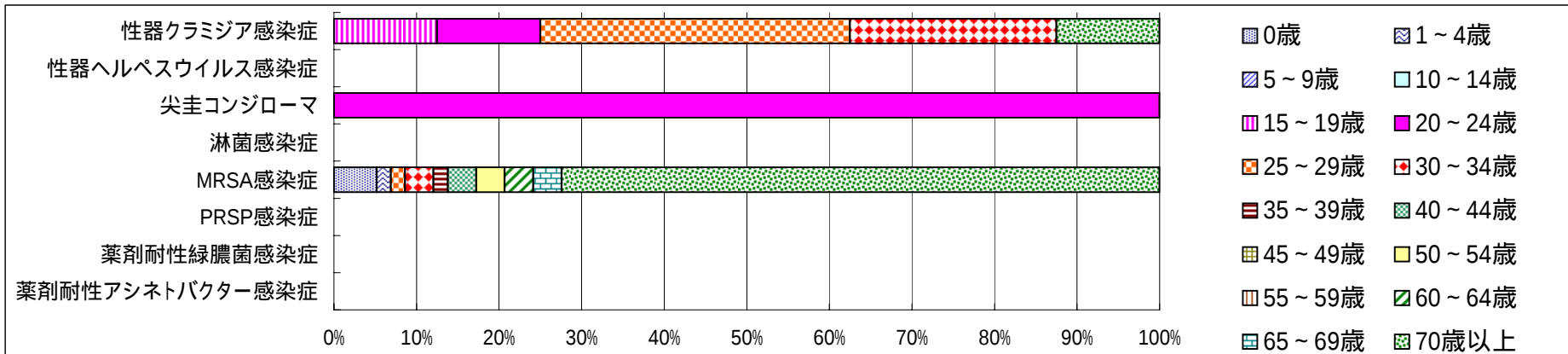
基幹定点における疾患別発生状況



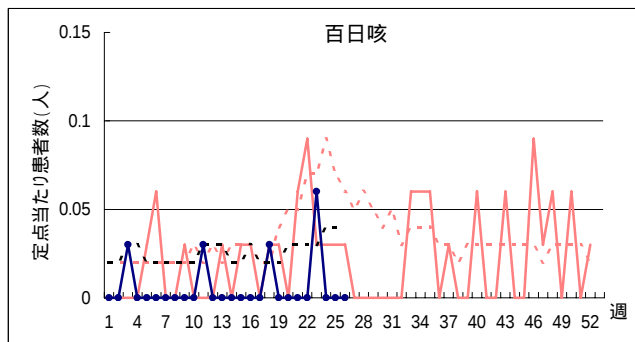
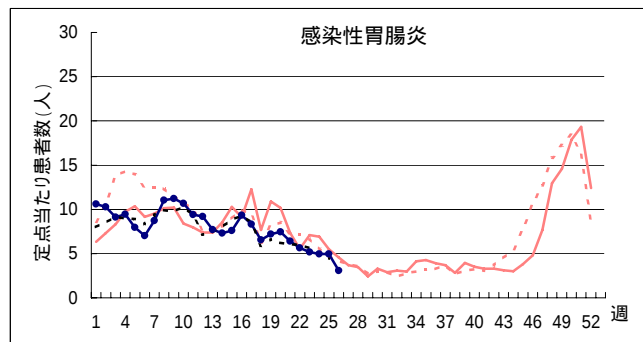
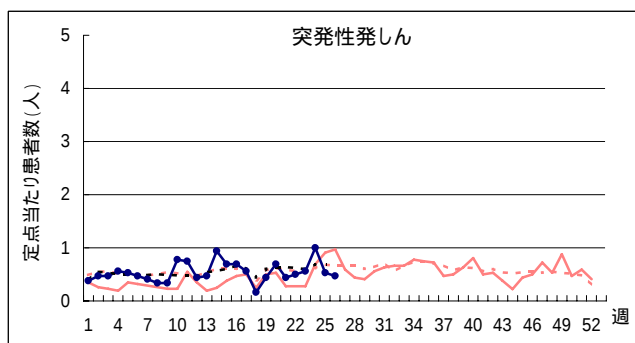
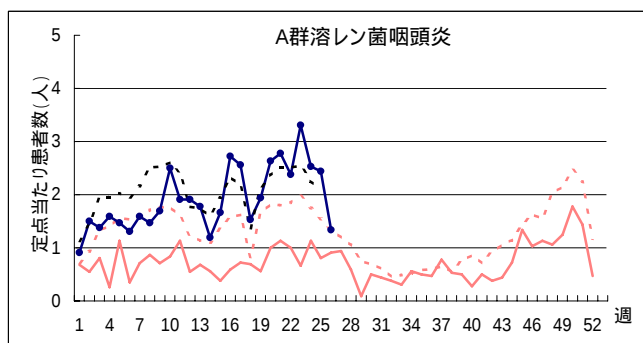
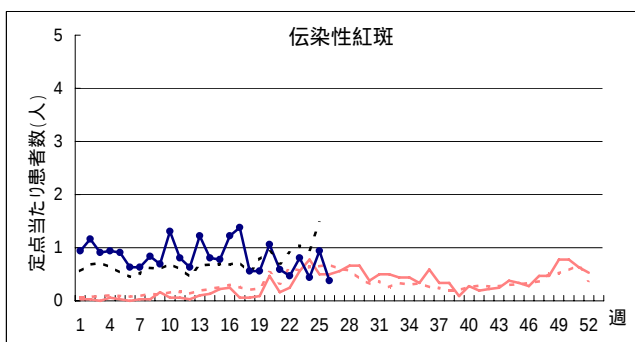
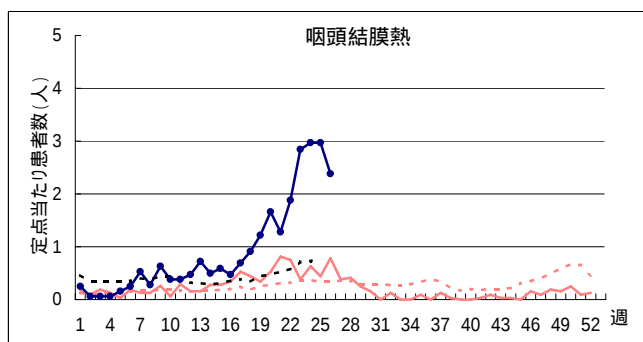
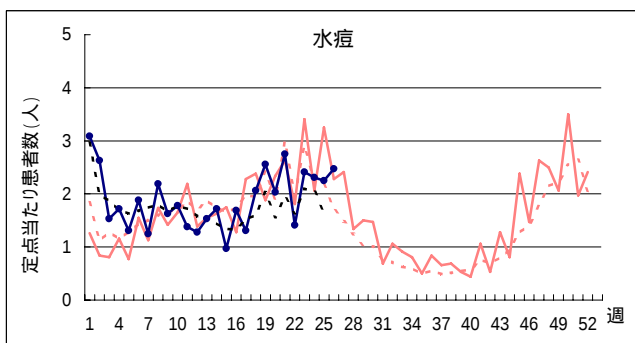
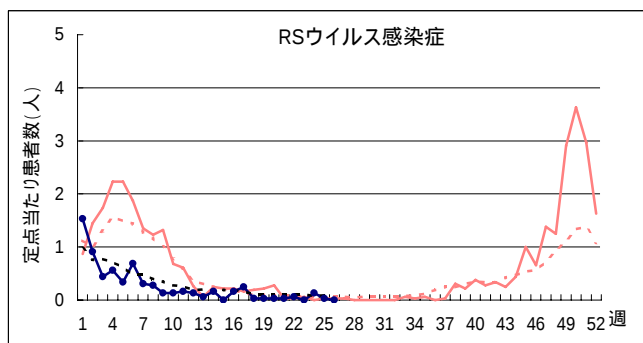
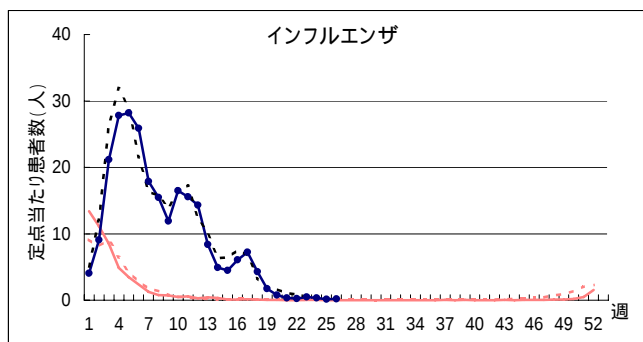
性感染症定点および基
幹定点における各疾患の
月別・性別発生状況は、
左記グラフに示すとおり
です。性器クラミジア感
染症では男女ともに先月
と横ばい、尖圭コンジロ
ーマでは男女ともに先月
より増加、淋菌感染症で
は男女ともに先月より減
少しています。

また、各疾患の年齢別発生状況は、下記グラフのとおりです。性器クラミジア感染症では、25～29歳からの報告が多くなっていますが、15～19歳および70歳以上からも報告されています。

疾患別・年齢別発生状況 (H23.6)



疾病別定点当たり患者数(平成23年第1～26週、H23.1.3～H23.7.3)



疾病別定点当たり患者数(平成23年第 1 ~ 26 週、H23.1.3 ~ H23.7.3)

